

平成 25 年度市民図書館利用者懇談会実施報告

- 1 日 時 平成 26 年 2 月 28 日（金）13 時 30 分～15 時
- 2 会 場 せんだいメディアテーク 2 階 スタッフ会議室
- 3 参加者 市民図書館利用者 8 人
（個人利用者 2 人、小学校、保育園、児童館、読み聞かせボランティア団体、
地域文庫、図書修理ボランティア各 1 人）
市民図書館職員 5 人
- 4 配布資料 「仙台市図書館振興計画（概要版）」「仙台市図書館要覧 平成 25 年度」ほか

5 内 容

懇談会の趣旨説明（市民図書館長）

仙台市図書館振興計画の概要の説明と、計画に基づき市民アンケートや利用者懇談会を実施する中で、幅広く意向を把握し図書館サービス向上に活かしていく旨を説明した。

市民図書館事業概要説明（市民図書館副館長）

市民図書館の事業の概要を説明した。

懇談

出席者全員からご意見等をいただき、図書館から説明・回答を行った。

6 意見・要望

個人利用者

- ・建物の構造の問題もあるが、もう少したくさんの本が見えるように展示してほしい。
- ・2、3 年前は美術関係の本が少ない印象であったが、専門書等がだいぶ増え充実した。
- ・専門書や普段自分で手に取らない本、あるいは全然知らなかった本などが図書館に置いてあると自分の視野が広がる可能性がある。それを果たす役割を持っているのが図書館であると思う。一般の多くの方々のニーズを探らなければならないという図書館の立場と相反するかもしれないが、少しマニアックで偏った蔵書も見せておくということにも意識を持ってほしい。
- ・仮設住宅では、震災から 3 年経過し様々な課題も出ている。仮設住宅の方々が本に親しみやすい環境を考えるべきではないか。仮設住宅に移動図書館車を巡回させるということは負担になるかもしれないが、14 市町村で仙台都市圏図書館の本を利用できるようになっているということだが、亘理町などの被災地図書館に対して仙台市がリーダーシップをとって支援を考えてはどうか。

（図書館から）

- ・移動図書館車は、震災後、巡回コースの組み替えを行い仮設住宅 4 か所を巡回している。来年度は、復興公営住宅への入居も開始することから巡回コースの変更を考えている。
- ・仙台都市圏 14 市町村の図書館、公民館図書室との連携については、毎年度全館が集まり、仙台市が議長となり協議の場を設けている。
- ・被災された方の心のケアに力を入れているところであり、ブックトークで紹介する本等にも配慮している。また、としょかんメディアテークフェスティバルでも、子供たちの心のケアに関する本の展示を行うこととしている。

小学校

- ・本校では朝読書パックや学校貸出の本の他、ブックトークボランティアが市民図書館から借りてきた本を利用している。市民図書館は本校のサブ図書館のような感じで結構な量の本を年間借りているので大変ありがたい。
- ・本校だけではなく他校からもよく話として出てくるのは、本が重いので、一人で持ち運ぶのは大変であるということと、17時まで返却しなければならないことである。貸出や返却についてボランティアの手を借りるとか学校側の工夫も必要なのかとは思いますが、もう少し図書館で工夫できると利用校も増えると思う。
- ・学校貸出の本を返却する際、この制度が始まったころは本を返却時、その都度本の確認を行っていたが、ある時期からその場での確認を行わなくなった。返却する側としては、返却手続きの時間も短縮されてよいが、返却してから5か月後に本が足りないという連絡を受けたことがある。期間がかなり経ってからの連絡では探しようがない。このようなことがあると、借りるときに躊躇してしまう。
- ・学校貸出について、希望のジャンルの図書を図書館で選んでもらえるのはありがたいが、学校職員自らが開架書架で図書を探し選べるようなシステムがあるとよいと思う。
- ・可能であれば、学校向けに「調べ学習」用の図書パックを作してほしい。
(図書館から)
- ・学校への本の貸出や返却については配送費等の問題があり、利用する学校に本の運搬をお願いしているところである。

図書修理ボランティア

- ・平成20年に修理ボランティアの募集があった時に応募し活動が続けている。ボランティア活動の場として図書館に門戸を開いていただいたことに感謝している。図書館応援団という気持ちで、できるだけ長く続けたいと思っている。
- ・修理ボランティアは現在4名しか残っていない。4名とも最初は修理の技術を知らないで参加した。少しずつ修理の技術を職員から教えてもらったり、研修会に参加して技術を習得し、楽しく活動している。個人としてのボランティア活動で、自分の都合の良い時に活動できることが活動しやすく長続きできる要素ではないかと思う。
- ・修理対象本の中には利用者がセロハンテープで応急措置をしたものがある。かえって修理しにくくなるので、テープを貼らないよう、パンフレット等で利用者へ周知を図ってほしい。県図書館のパンフレットにもこのことは記載していないようだが、何か周知できないような理由があるのか。
- ・図書の返却手続きについて、カウンターに置くだけとしているが、職員が対面で返却本を受け取り汚損・破損等の有無をその場で確認できるようにしてほしい。
- ・汚損・破損本は表紙にその旨表示してほしい。そうすることで、利用者が返却する際に自分が汚損したものではないことを証明できる。
- ・平成20年度にボランティアを募集した際の研修会で、ボランティア活動の目的やボランティア活動にあたって注意すべき点をまとめた資料をいただき大変役に立った。しかし、震災以降、図書館の方針がよくわからなくなっているように感じる。今年度はボランティアの登録更新や図書館とボランティアとの交流会が行われていない。年に1回は、図書館のボランティアに対する考え方を文書で示し、お互いに確認する場を設けていただきたい。
- ・図書館が開催する講座や講演会などについて、講師をリクエストしたい。

(図書館から)

- ・汚損等のある本にその旨を表示しているが、数が多くてすべてに対応できていない状況である。
- ・市民図書館 3 階には返却カウンターを含め 4 つのカウンターがあるが、職員は通常時 3 名で対応しているため常時返却カウンターに職員を配置することが難しい状況であり、貸出カウンターを優先させている。
- ・震災後、ボランティアの一斉公募は行っていない。図書館でのボランティア活動を希望する方に対しては、その都度図書館から説明をしたうえで活動してもらうこととしている。
- ・ボランティアの方々との交流会等も開催していきたい。
- ・講演会の講師については、全て要望に応えられるわけではないが、講師の方の情報をいただければ検討したい。

要望は、講座でのアンケートに記載してもいいし、講座に参加していない場合は、随時窓口の職員に伝えていただきたい。

保育園

- ・平成 24 年 4 月に開園した保育園であるため所蔵図書が少なく、図書館で貸し出している「子ども読書支援パック」の幼児向けパックを利用して読み聞かせの活動をしている。
幼児向けパックには紙芝居や絵本等が入っており、よく利用させていただいている。
- ・「こども読書支援パック」(50 冊)は女性には重い。車がないと運べない。配達してもらえるシステムがあるとよいと思う。
- ・「こども読書支援パック」について、季節に応じた内容のパックを用意してほしい。

(図書館から)

- ・季節に応じた内容のパックについては要望が多かったので、準備しているところである。支援パックの貸出も、これまでは 1 パックのみとしていたが、小道具パックの利用が多いことから、小道具パックと本のパックの 2 種類を借りることができるように変更する予定である。
- ・配送サービスについては、費用の問題もあり難しい。

児童館

- ・児童館として団体貸出、「子ども読書支援パック」、除籍本の無償譲渡制度を利用している。
- ・児童館職員として講習会に参加したが、手袋人形の講座等大変勉強になった。
- ・「子ども読書支援パック」は同時期に同じパックの利用希望が重なることがある。現在は貸出期間が 1 か月となっているが、2 週間程度に短縮すればより多くの団体が利用できると思う。
- ・支援パック図書の運搬のため車で来館している。周辺の有料駐車場を利用しているが、返却時だけでもメディアテーク地下駐車場を無料で利用できるとよいと思う。

(図書館から)

- ・「子ども読書支援パック」をできるだけ多くの方に利用していただくため、2 種類のパックを貸出できるように考えているが、貸出期間についても検討していきたい。

地域文庫

- ・文庫貸出で借りた図書を利用し、児童館で文庫を開設している。このほか、月1回おはなし会を開催しているので、図書館で実施しているおはなし会講座にも参加し活用している。
- ・文庫書庫の利用について、書庫利用の申し込みが1週間前となっているが担当者から「都合が悪い」と断られることがある。1週間前だと、申し込みを忘れてしまうこともあるので、もっと前から申し込みできるようにしてほしい。自分たちが希望する日に利用させてもらいたい。
- ・地下書庫までの通路が分かりにくく迷ったことが何回かあった。
- ・グループ閲覧室の利用手続きについてうまく説明・対応できない職員がいた。どの職員も同様に対応できるようにしてほしい。
- ・「子ども読書支援パック」について、パックされたすべての図書を利用しないケースもあるので、小分けにしたパックを作してほしい。
- ・借りる前から汚損していた本を返却する場合、返却カウンターに職員がいない場合でも、そのことを伝えられるように、返却する場所を変える等の工夫があるとよいと思う。

(図書館から)

- ・地下にある文庫書庫については、できるだけ利用しやすいよう、本の入れ替えを随時行い、表示等にも力を入れている。
- ・文庫書庫については、職員が業務を行う日の利用はご遠慮いただいているので、ご理解いただきたい。また、勤務割の関係で、担当者の出勤日と合わない場合もあって折り合いが難しいこともあるが、担当者でなくとも対応できるようにしていきたい。
- ・グループ閲覧室の利用手続きについても、全職員が対応できるように努めているが、なお徹底していきたい。
- ・汚損していた本を返却する際は、貸出カウンターの職員に直接伝えてもらえれば対応する。

個人利用者

- ・買いたい絵本がある場合でも、最初に図書館で借りて確認してから買うことができるのでとても便利である。
- ・2階児童書フロアの書棚の脇に3階と同様に番号を表示してほしい。フロア案内図についても3階と同様に2階正面の壁面に表示してもらえると便利である。

(図書館から)

- ・案内表示はできるだけわかりやすいように改善していくようにしている。3階の表示については、大きく目立つようにした。3階エスカレーター前にもフロア案内図を表示した。2階についても、初めて図書館を利用する人にもわかりやすい表示に努めてまいりたい。

読み聞かせボランティア団体

- ・図書館が開催した読み聞かせ養成講座に参加したことがきっかけで、子ども向けのおはなし会に携わっている。水曜は図書館職員と共同で、土曜は団体単独として年間 30 回ほど実施している。
 - ・荒天、災害時の危機管理体制をしっかりと行ってほしい。先日（2 月 15 日（土））の大雪の際、図書館職員に「お話会は実施するのか」と問い合わせたところ「同日にメディアテーク内で開催中の催事に来場者がいるので出来そうだ」という回答であった。そのような回答ではなく、危機管理の上で基準を決めて、基準に基づき判断をしてほしかった。また、おはなし会の最中に地震が起こった時、どのような対応をすべきかについて話し合ったことはなかった。地震の際の館内放送もなかったように思う。
 - ・学校の修学旅行の時期には、関連する調べ学習で借りたい図書が重複するので、調べ学習用の図書パックを多く用意してほしい。震災の影響で修学旅行先を福島から岩手に変更したところ、図書館には岩手県関係の図書が少なく困ったことがあった。
- （図書館から）
- ・修学旅行先が変更になるなどの状況に対しては、事前に図書館への情報がなく、どうしても対応が後追いになってしまう。
 - ・今回の大雪では、おはなし会は中止しなかったが、以前、台風接近の際は中止した図書館もあった。地震が起きた場合の対応は、マニュアルを作成し職員に周知しているが、大雪の場合など荒天時の対応も考えたい。